

きつねの伝言^{でんごん}

奈良県

むかし、五条のいかだ乗りが、いかだに乗って川を下っていると、どこからか、「おうい、わしは五条のきつねやが、子どもが生まれたと、和歌山のきつねに伝えてくれ」という声がしました。

いかだ乗りは、川を下って行って、もうすぐ和歌山というところまで来たとき、「おうい、和歌山のきつねよう、五条のきつねが子を生んだぞう」と、大きい声で知らせました。

そのうち、またいかだ乗りが川を下っていると、あのきつねの声が出て、「このあいだは、世話になつたなあ」といいました。ふと見ると、いかだの上に、竹の皮につつんだおまんじゅうが置いてあったということです。

おしまい。

村上郁再話

資料『子どもと家庭のための奈良の民話』村上郁再話／京阪奈情報教育出版